

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 6月28日更新

事務事業名		保育所整備助成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	荒牧 聡
	施 策	4 子育て支援の充実				所属課	子育て支援課	担当者名	緒方 紀吏子
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1182
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 3	事業連番 11449	根拠法令	保育所等整備交付金	
								成果優先度評価結果	⑥
								コスト削減優先度評価結果	②
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 25 ~ 31 年度) ☒ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	待機児童解消のための保育所等の創設や老朽改築による保育環境整備などの施設整備に要する費用の一部を補助することにより、子どもを安心して育てることが出来るような体制整備を行う。
【業務の流れ】	①施設整備計画の確認 ②県事前協議 ③県補助金申請 ④交付決定 ⑤工事着工～竣工 ⑥竣工確認 ⑦実績報告 ⑤補助金請求～支払い
【主な予算費目】	補助金
【意見や要望】	待機を余儀なくされている保護者や新たに入所を申し込む保護者からは、保育所整備の要望がある。議会からも早急な待機児童対策が要望されている。 合志市認可保育連盟からは、定員増へ出来る限りの協力をすると申し入れがあっている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO)		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
かすみ保育園(移転)定員30人増 187,515,000円をH30年度へ繰越(仮称)栄第二保育園		待機児童対策の一つとして、保育所等の施設整備に対し、保育所等整備交付金を活用して施設整備費補助を行う。 西合志東保育園が整備予定。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:施設整備により定員増を行なう保育所等	園	整備施設数に増減はないが、定員規模の違いによる補助金の増額	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
施設整備を行なう事業者	園	→ア:施設整備を希望する保育所等	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
定員増できるよう施設を整備する	園	→ア:施設整備できた保育所数	
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠 施設整備により、児童の健全育成ができる。また、保護者は安心して仕事ができる。			総トータルコスト 全体計画 ～31年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	園	1	3	1	1	1			
	イ									
② 対象指標	ア	園	1	3	1	1	1			
	イ									
③ 成果指標	ア	園	1	3	2	1	1			
	イ									
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	30,062		157,105	568,181	179,032		
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	15,031		19,638	71,021	22,379		
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	45,093	0	176,743	639,202	201,411		
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0		
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0		
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2		
		延べ業務時間	時間	430	480	500	580	500		
	(B) 人件費計	(B) 人件費計	千円	1,596	0	1,992	2,294	1,992		
トータルコスト(A)+(B)			千円	46,689	0	178,735	641,496	203,403		

事務事業名	保育所整備助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	-----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度的事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 9月から工事に着工している。今年度竣工予定の工期である。（国からの交付決定も受けている）
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 施設整備について事前協議を済ませているため、目標は達成するものと見込まれる。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 保育所の協力を得ながら最大限の施設整備を行なっている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 類似事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 施設整備のほかに家庭的保育など空き施設等を利用した保育サービスもあるが、施設整備については国が定めた基準があるため、削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人員のため削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市町村は、児童の保育に欠けるところがある場合においては、保護者からの申込みがあったときは、それらの児童を保育所において保育しなければならない。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市町村は、児童の保育に欠けるところがある場合においては、保護者からの申込みがあったときは、それらの児童を保育所において保育しなければならない。

3 評価結果の総括（CHECK）

--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																						